

西大門

西大門として知られる守護王の門は、醍醐寺の主要な建造物群である下醍醐の入り口を示しています。現在の門は1605年に豊臣秀頼（1593-1615）によって再建されたものです。豊臣秀頼は、豊臣秀吉（1537-1598）の息子です。

門の両側には、2人の慈悲深い守護王（仁王）の像があり、仁王は仏教寺院の入り口を守るために門に座っています。一人は口を開け一人は口を閉じています。これは、彼らが最初と最後、つまり生と死、アルファとオメガ、始まりと終わりを示しているからです。

彫像は1134年のもので、現存しない南大門から移動されたものです。